



優秀賞

受け継ぐ心

鹿嶋市立平井中学校 1年 大川 璃空

僕の誕生日は、祖母の命日である。僕が産まれるまで、祖母の孫は全員女の子で、祖母自身も娘が二人だった。孫の全員が小学生や中学生になった時、母のお腹の中に僕が宿った。そして、同時に祖母に末期のガンが見つかった。不運は続き、母のガンも見つかった。幸い母のガンは初期のもので手術すれば問題なかった。祖母は末期という事もあり、遠く離れた病院で治療することになった。

幼稚園に入るまでは、自分に祖母がいなことを不思議に思うことはなかったが、周りの友達が祖母の話をしたりすることで、自分には祖母がいなことに気づき、母に聞いた。僕にも祖母がいたこと。とても辛い治療が続いたが、母のお腹の中にいる僕が初めての男の子と分かり、とても喜び、会える日を希望にして辛い治療にたえてきたことを知った。僕はうれしかった。僕の存在が祖母の生きる力となつてつながつていたこと、憶えてはいるがとても愛されていたことが。

僕が産まれる八月、それは祖母が医師から余命宣告を受けた時だった。母は、祖母と僕を会わせるために、予定日より少し早く出産することを決め、そして僕は産まれた。祖母の体は限界に近かっただろうに、祖母はずっと僕の世話をしていたと母から聞いた。そして、祖母は僕の一歳の誕生日に亡くなった。

今僕は、中学生になった。今でも必ず自分の誕生日には、祖母に会いにお墓に行く。会えなくなつてしまつたけれど、今でも僕と祖母はつながつているから。祖母から母へ、母から僕へ。そして僕もその思いを未来へつなげていきたいと思う。おばあちゃん、おばあちゃんが思ってくれた様に僕も誰かの生きる意味となるような人になれるよう、これからも生きていきたい。